

授業科目	生理学Ⅱ				
担当者	木村 晃大 (実務経験者)				
実務経験者の概要	医師としての臨床経験があり、神経科学の研究を行っている。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	1 年	総単位数	1 単位
	作業療法学専攻	開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

人体の各臓器がいかにかに正常の機能を維持し、1 個体としての機能を発揮しているのかを学習する。

## ■ 到達目標

各臓器における構造と機能を理解するだけでなく、生理学を通じて生命現象を理論的に考察する力を養う事を目標とする。

## ■ 授業計画

- 第1回 血液1 (血液)
- 第2回 血液2 (免疫)
- 第3回 循環器1 (循環)
- 第4回 循環器2 (循環)
- 第5回 呼吸器1 (呼吸)
- 第6回 呼吸器2 (呼吸)
- 第7回 腎臓1 (排尿)
- 第8回 腎臓2 (排尿・呼吸 (酸・塩基平衡))
- 第9回 消化器1 (消化・吸収)
- 第10回 消化器2 (咀嚼・嚥下・排便)
- 第11回 内分泌1
- 第12回 内分泌2
- 第13回 内分泌3 (内分泌・生殖)
- 第14回 性と生殖 (生殖)
- 第15回 後期総括

## ■ 評価方法

【科目試験 (筆記試験) 70%】 復習プリントの提出 10% 各講義後の小テスト 10% 本試験前のプレテスト 10%

## ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけ、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。毎授業ごとに渡される復習プリントは、講義プリントや参考書を見ながら次の講義までに完成させ、講義の最初に提出すること。

## ■ 教科書

書 名：標準理学療法学・作業療法学 専門分野 生理学 (第4版)  
 著者名：岡田 隆夫・長岡 正範  
 出版社：医学書院

## ■ 参考図書

書名：標準生理学（第8版）

著者名：小澤 滯司 他

出版社：医学書院

## ■ 留意事項

『小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。』

## ■ 講義受講にあたって

生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも、幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。